

記 者 提 供 資 料
2019 年（平成 31 年）1 月 28 日
市民病院経営企画課（内線 7062-2269） 直通（078）912-2776

## 回復期リハビリテーション病棟の開設について

みだしのことにつきまして、次のとおり、お知らせします。

### 1 概要

- 明石市立市民病院は、平成 31 年 2 月 1 日より「回復期リハビリテーション病棟（30 床）」を開設いたします。

現在、国が示す地域医療構想により医療圏域における病床機能の再整備が進められ、当院は地域密着型の自治体病院として、急性期医療だけでなく回復期・慢性期（在宅）の地域医療をどのように支援していくかが問われています。

東播磨圏域においては、4つの病床機能（高度急性期・急性期・回復期・慢性期）のうち、2025年の必要病床数の推計において、急性期病棟が過剰となる一方で回復期病床が不足すると見込まれています。そのため、急性期病棟からの転換や非稼働病床の回復期病床としての再稼働が求められるなど、当該圏域の地域医療にとって回復期病床の確保は喫緊の課題となっています。

<参考> 将来の医療需要と必要病床数の推計

圏域	病床機能	2016(H28)年度	2025(H37)年度		差引 正数：過剰 △：不足
		病床機能報告 (稼働病床)	医療需要 (人/日)	必要病床数 (床)	
東播磨	高度急性期	422	548	730	△308
	急性期	3,668	1,739	2,229	1,439
	回復期	602	1,903	2,115	△1,513
	慢性期	1,527	1,270	1,380	147
	病床数小計	6,219	5,459	6,454	△235

（「兵庫県医療計画（第7次）【第3部 地域医療構想】」より）

一方、当院は平成 22 年から 6 階東病棟（50 床）を休止していたことから、再稼働の検討において、地域の総合病院という特徴を生かしつつ地域医療に資する有効な活用方法を模索してきたところです。

当院は、今後東播磨圏域の回復期病床が不足する状況を鑑み、常に地域医療への貢献を考え求められる役割を果たしてきた市民病院として、休止していた 6 階東病棟を再稼働し、回復期リハビリテーション病棟（30 床）として運用することといたしました。

- これからも、地域包括ケアシステムのなかで当院が中核的な役割を担えるように、急性期病院としての資質を活かしながら、回復期機能や在宅医療への支援機能も付加しつつ、高齢化社会で生じる新たな医療ニーズにシームレスに対応できる急性期多機能病院をめざしてまいります。

## 2 回復期リハビリテーション病棟について

- 回復期リハビリテーション病棟は、大腿骨頸部骨折や脳血管疾患などの病気で、急性期を脱してもまだ医学的なサポートが必要な患者さんに集中的なリハビリテーションを実施して早期の在宅復帰を支援する病棟です。
- この病棟に入院いただくリハビリ対象患者さんは、当院の整形外科や脳神経外科、循環器内科を中心として一般病棟から転棟される患者さんで、ポストアキュート\*の回復期リハビリを実施する院内診療体制の強化を目的としています。

※ポストアキュート・・・急性期経過後に引き続き入院医療を要する状態

## 3 当院稼働病床数（2月1日～）

※全稼働病床数 331床

病棟種別	病床数
急性期病棟（7対1）	245床
回復期リハビリテーション病棟	30床
地域包括ケア病棟	50床
ハイケアユニット（高度治療室）	6床